

神奈川県産果実使用 果汁ゼリー新発売 「湘南ゴールド」「湘南潮彩レモン」「横浜のなし」の3種

タカナシ販売株式会社は、JA全農かながわ生活課と連携し、県産果実を使用した神奈川県果汁ゼリーを6月16日から新たに発売した。

同社は、規格外で店頭に並ぶことのない果実を有効活用したいとの思いがきっかけで開発をスタート。県産果実を加工した原料を使って、スイーツを販売する取り組みを始めた。生活課は一次加工(果汁)で協力する。

かながわブランドにも登録されている、上品な甘さの「湘南ゴールド」、さわやかな酸味と香りの「湘南潮彩レモン」、ジューシーで甘みが強い「横浜のなし」を使用した3商品が開発された。自然な甘みとほど良い酸味が特徴で、みずみずしくなめらかな食感に仕上げた。冷やして食べるのはもちろん、これからの時期は凍らせてシャーベット状にして食べるのもおすすめという。

JA全農かながわでは、SDGsの取り組みとして果汁

以外に、湘南ゴールドや湘南潮彩レモンなどの規格外果実をピューレ化し、商品開発・原料供給に取り組んでいる。

生活課の担当者は「捨てられてしまう果実を『もったいない』という観点からおいしく活用していただいた。今後も規格外果実を有効活用する取り組みを続けていきたい」と話す。

1袋130g入り、販売参考価格は268円(税抜き)より。県内スーパー量販店などで販売中。



3色で整えシンプルなパッケージデザインにすることでSDGsにも配慮

県内産学校給食用米への理解醸成 親子で田んぼや生き物の大切さ学ぶ

JA全農かながわ農産販売課は6月22日、JAかながわ西湘協力のもと「田んぼの生き物調査」をJAかながわ西湘管内のほ場にて開催した。本イベントは、毎年恒例で開催しており、水田の多面的機能や県内産学校給食用米への理解を深める目的で行っている。

当日は36人の親子が参加し、泥だらけになりながら田んぼの生き物を採取した。その後、採取した生き物を図鑑で調べ、アメンボ、アメリカザリガニ、オタマジャクシをはじめとする22種の生き物を観察。子どもたちが「初めて見た!」「これは何?」と楽しみながら学ぶ様子が印象的だった。講師が採取した生き物や、田んぼの役割について解説する場面では、子どもだけ

でなく大人も真剣に話を聞いており、親子で田んぼへの理解を深めた。

講師の株式会社全農ビジネスサポートの大武勇さんは、「田んぼを守るために大切なのは、田んぼに興味を持ってもらうこと。この取り組みをきっかけに、子どもたちはもちろん、大人にも農業を身近に感じてもらえたらと思う」と、今回の取り組みを振り返った。

JA全農かながわが集荷した県産米のほとんどは、神奈川県学校給食会を通じ、県内の小・中学校等の給食に使用されており、本イベントは、「給食のお米はどこからくるのか」について理解を深める貴重な機会となっている。



みんなでいっせいに生き物調査スタート

夢中になって生き物を探す親子

採取した生き物を図鑑で調べて観察する子どもたち

心と身体の健康テーマに商品研修会開催 新たに商品展示会も

JA全農かながわ生活課は、7月16日「第2回JA生活担当職員商品研修会」を、平塚市のJAビルかながわで開催した。JA職員の商品知識向上による推進力の強化や、利用拡大を図ることを目的としており、県下JAの経済担当職員など34人が参加した。

心と身体の健康をテーマにした研修会では、災害に備えるための対策方法や電解水素水整水器の取り扱い方などを学んだ。

今回初めての取り組みとして、各JAの形式に合わせた事業展開ができるよう幅広い商品



アシストスーツを試着する参加者

を提案し、企画や商品の選択ができる機会を設けることを目的に日用品を中心とした「商品展示会」も開催。

アシストスーツやエコープマーク品、暑熱対策商品などが展示された。各展示ブースでは出展者が商品や資料を用いて参加者に説明。試飲や試着も実施し、性能を伝えた。

JA全農かながわ生活課の担当者は「今回の研修内容をJAでの推進活動や研修等に生かしていただきたい。今後もさまざまな商品を提案をしていきたいと思う」と研修会を振り返った。



研修を受ける参加者

東京駅JAタウンマルシェに出店 足柄茶100周年PR 会場賑わう

6月12日、JA全農主催の「東京駅マルシェ! by「JAタウン」」が東京駅構内で開催された。イベントは、大消費地圏で旬の果物や野菜・加工品の実販売を通してJAタウンのPR、会員登録者を獲得することを目的としており、会場は特産品を買いたい求めている人で賑わいをみせた。

当日は16ショップが出店し、約180品目を出品した。JAタウンのショップ「JA全農かながわ」も出店し、「足柄茶リシール缶」と「食べるお茶」を販売。来場者に、商品説

明を交えながら今年で栽培100周年を迎える足柄茶のPRをした。

来場者は「いつもはサイトで見ている商品を、実際に手に取って試してみることができてよかった。足柄茶も飲んだことはあったが、歴史などは知らなかったので、知れてよかった」と話した。

今後も、JAタウンを通じて、県産農畜産物の認知度向上・PRに取り組んでいく。



販売した足柄茶



商品を手取る来場者と商品説明をする担当者